

## 第252回 令和8年6月17日（水）

### 「開国のif」

GWに島田雅彦さんの「ifの総て」を読みました。SF小説で、歴史を変えることができたというお話でした。最近「if」ものが流行しているので、私も開国について考えてみました。

江戸時代の鎖国政策を学んだことがあると思います。日本は、オランダ、中国、朝鮮、琉球との限定的な貿易を除き、外交・交易を制限しました。この政策の目的は、外国の宗教や勢力が国内に影響を与えることを抑え、幕府の統治を安定化させるものでした。

鎖国と聞くとすべての国との交流を閉ざしていたようなイメージがありますが、決してそうではありません。出島（長崎）を介したオランダとの交易、清（中国）との交易、朝鮮通信使や琉球王国との交流、松前藩（北海道）のアイヌとの交流など、約200年間続きました。

アダム・ラクスマンはロシア帝国1792年ロシア帝国の外交官として日本との通商関係を開拓しようと試みます。その際、ラクスマンは日本人漂流民を送り届けるという「友好的な理由」で交渉を試み、日本に接触しました。しかし具体的な交易関係は結ばれませんでした。

19世紀に入り、欧米列強は産業革命によって経済力や軍事力を拡大し、アジア諸国を植民地化しながら、アジア・太平洋地域への進出を積極化していきました。

ジェームズ・ビッドルはアメリカ人で1846年に日本に近づき、開国を求める外交交渉を試みました。巨大な軍艦「コロンバス」と「ヴィンセンス」を率いて浦賀に到着し、幕府に公式の開国要求を伝えました。幕府は依然として外交的な慎重姿勢を維持し、ビッドルに対して拒否的な態度を取りました。実際にはほとんど交渉が進展せず、ビッドルは期待していた成果を残せないまま帰国しました。

1853年にアメリカ海軍のマシュー・ペリー提督が、黒船（蒸気船）を率いて浦賀（現在の神奈川県）に来航、日本に対して開国を要求しました。1854年に再来航し、幕府は「日米和親条約」を締結。これにより鎖国政策に終止符が打たれ、開国が始まりました。

ラクスマンやのちのレザノフなど、ロシアに初めに国をひらいていたら日本はどうなっていたでしょうか。幕府は延命していたかもしれませんし、ロシアは地理的にも近いので日本の一部がロシアの領土になっていた可能性もあります。ペリーほど武力で脅す外交ではなかったので、友好的な開国ができた可能性もあります。

どこで開国したか、「if」を考えてみるといろいろと想像できます。江戸幕府が現在の政府に成長したかもしれません。侍が現代に残っていたかと思うと少し面白く感じます。